

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：13101

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K21032

研究課題名（和文）地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷

研究課題名（英文）Related organization and transition of Ryotei as regional cultural system

研究代表者

岡崎 篤行 (Okazaki, Atsuyuki)

新潟大学・自然科学系・教授

研究者番号：10281247

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：全国の主要な花街及びその他の地域を対象に次の項目を分析した。(1)料亭に係る組織・活動の変遷、(2)料亭の分布とその変遷、(3)料亭建築の規模と保全活用の実態。事例とした地域は札幌薄野、江差・松前、八王子中町、神楽坂、金沢、新潟古町、小浜三丁町、名古屋、京都（祇園、先斗町、島原、五條楽園など）、博多等である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

料亭は日本文化を継承し地域文化システムとも深く関わるが、現在は廃業が相次ぎ、各都市で料亭街が消滅しつつあるため、調査は喫緊の課題となっている。一方、料理業界では新たな取組や助成制度、旧料亭の活用なども全国でみられるようになり、料亭の価値が再認識されている。だが、これまで料亭を対象に全国を網羅的に調査した研究はない。全国の料亭やその組織と変遷について都市計画、建築計画、建築史、NPO論、経営学など分野横断的な視点で研究を行うことで、本研究の成果を料亭の保全・活用に関する制度や事業の構築や、地域の伝統文化継承による地域経済活性化策立案のための基礎資料として活かすことが可能と考える。

研究成果の概要（英文）：Following three issues are analyzed through case studies in major Kagai and other regions. (1)Transition of organization and activities related to Ryotei. (2)Distribution of Ryotei and their transition. (3)Scale and conservation of Ryotei architecture. Fields of case studies are as follows: Sapporo, Esashi, Hachioji, Kagurazaka(Tokyo), Kanazawa, Niigata, Obama, Nagoya, Kyoto, Hakata(Fukuoka), etc.

研究分野：都市計画

キーワード：料亭 茶屋 花街 伝統文化 景観 組織

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

元来、料亭は宴席以外にも冠婚葬祭や公式会合、商談など日本人の生活と密着していた。しかし、現在ではその役割がレストラン、ホテル、ホール、公民館等へ移り、料亭を使う日本人はごく少数となった。このような生活様式や経済状況の変化により、今日においては料亭の廃業が相次いでいる。その結果、以前は各都市にあった料亭街が消滅しつつある。一方で、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、和食や料亭の価値は見直され、重要な観光資源にもなっている。また、主に戦前の料亭建築は近代和風建築の中でも大きな位置を占め、ひとつの重要な建築類型といえる。和の衣装や日本舞踊を中心とする伝統芸能を体現する芸妓とともに、料亭は、あらゆる日本の伝統文化を包括的に継承する花街の中核を担っている。また、郷土料理や地元作家による美術工芸品など、地域文化も根ざしている場所である。加えて、花柳界や各地域の料理業生活衛生同業組合や料理業組合、支援や連携して活動する行政、民間組織(NPO、旅行者、商工会議所)など様々な組織が関わっている。そのため、料亭はひとつの地域文化システムといえる。

一方、料理業界では客層を一般に広げるための新しい動きがみられる。例として、イベントやウェディング事業、観光ツアーなどのプロモーション活動がある。さらに、行政や民間組織が関わる例もみられ、例えば、金沢市では料亭建築修理や板前研修に対する助成制度がある。また、旧料亭を活用した文化・商業施設等の事例も全国でみられる。

既往研究の状況としては、料亭を対象として全国を網羅した都市・建築分野における研究はない。個別事例を対象としたものはあるが、地域的に扱っている研究も少なく、江戸城下における立地特性、江戸～昭和期の水辺との関わりを扱う研究のみである。書籍でも意匠や成り立ちについて僅かに触れられる程度である。本研究は、全国を対象に、料亭の組織、分布、建築及びその変遷を初めて研究する点で萌芽的かつ挑戦的な研究である。また、都市計画、建築計画、建築史、NPO論、経営学といった様々な分野の研究者が集まる分野横断的な共同研究である。

これまで全国約50都市で花街の建築、景観、まちづくりの研究を進めており、その中で料亭は花街の中核を形成する重要なものであることを認識している。また、東京や京都といった大都市以外の地方にも、規模や歴史等の面で重要な料亭が存在することも明らかになっている。さらに、花街の組織のみならず、料理業界独自の組織も多様かつ多数存在することも把握している。このように、地域文化システムといえる料亭に着目し、全国を対象にしてその組織と変遷という新たな視点での分野横断的に研究を進める必要がある。

### 2. 研究の目的

本研究は地域文化システムとしての料亭に関する組織と変遷を明らかにすることを目的とする。具体的には、全国及び各地域における(1)料亭に係る組織・活動の変遷、(2)料亭の分布とその変遷、(3)料亭建築の規模と保全活用の実態を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究の調査・分析内容は、全国を網羅的に対象にするものと各地域で個別に詳細な調査を行うものがある。全国の調査では、主に資料・文献閲覧、電話ヒアリングにより調査を行い、地域別の調査では、現地ヒアリングを中心に調査を行う。以下に3つの研究課題ごとに調査・分析内容を示す。

(1) 料亭に係る組織・活動の変遷： 料亭に係る組織の概要、 料亭に係る組織の詳細(個別ヒアリング)、 旧料亭に係る組織の詳細(個別ヒアリング)

(2) 料亭の分布とその変遷： 大規模な伝統的料亭の分布、 料亭の明治期～現在の分布の変遷に係る資料収集及び分析、 旧料亭の活用事例・用途転換の把握

(3) 料亭建築の規模と保全活用の実態： 料亭建築の規模(部屋数、敷地・大広間等)の実態、 料亭の保全・活用に関する制度や先進的取り組み、 料亭経営の実態(創業経緯、営業形態の変遷、プロモーション)、 料亭建築の詳細(様式、間取り、細部意匠)

### 4. 研究成果

全国ならびに各地域において、下記のとおり3つの研究課題に取り組んだ。文章内の(1)～(3)は、「2. 研究の目的」「3. 研究の方法」の研究課題番号に対応する。

全国については、(1)料亭および花街に関連する組織の実態、ならびに関連組織と地域連携の実態、(1)料亭に関わる花街の要として重要な組織である見番の実態、(1)花街に関する支援組織の実態、(1)明治期から昭和初期にかけての都道府県統計書を用いた料亭を含む花街関連統計データの分析を行った。また、(3)全国の料亭および関連する花街について、立地、規模、運営実態を網羅的に把握した。さらに(3)都道府県別に刊行されている「近代和風建築総合調査

報告書」を網羅的に分析し、掲載された全ての料亭建築について、その建築的特徴を典型的に検討した。

次に各地域について述べる。札幌薄野を対象として、(2)都市形成史ならびに料亭分布の変遷と実態に関する調査を行った。江差を対象として、(1)花街無形文化の現状に関する調査を実施した。また、江差・松前を対象として、(2)北前船による海の道と花街・料亭文化の関係を明らかにするフィールドワークを行った。八王子中町花街を対象として、(1)料亭等の花街の魅力に関するヒアリング調査、(3)花街マップの作成による情報発信手法などの検討および実践、(3)中心市街地の将来像を公民連携で実現するツールとなる景観絵本の策定を行った。また、(3)修景の働きかけや店舗等の誘客をねらう「黒塚キャンパス」プロジェクトの社会実験、地域と連携したマップ作成やイベント開催に取り組んだ。神楽坂を対象として、(1)花街文化を活かしたまちづくりを進める NPO 粋なまちづくり倶楽部の活動の継続性について調査し、(1)景観保全に取り組む NPO 組織の活動経緯と役員陣・メンバーの世代交代の戦略を明らかにした。金沢の料亭について、(2)昭和初期の立地、(3)行政による助成実態を明らかにした。金沢・ひがしおよび主計町茶屋街を対象として、(3)近隣に新設された浅の川園遊会館の視察・ヒアリングを実施した。石川県加賀市を対象として、(2)北前船による海の道と花街・料亭文化の関係を明らかにするフィールドワークを行った。新潟県内の花街を対象として、(3)中小料亭の分布、規模、保全活用実態等に関して調査を行った。また、新潟・古町花街を対象として、(3)料理店に転用された邦楽師匠旧宅の文化財登録に関わる所見を作成した。岐阜を対象として、(2)地図史料から昭和初期の待合の位置を推定した。また、統計を用いた料理屋数や芸妓数の推移の分析をおこなった。小浜三丁町を対象として、(2)古地図等を用いた調査により、京都島原成立の影響を考察した。愛知県・名古屋を対象として、(2)昭和初期における花街分布の推定を行い、(2)料理屋数、待合数等の推移を分析した。京都嶋原を対象として、(3)街並みの復元を行った。京都五條楽園を対象として、(3)お茶屋建築の保存活用に関する研究を行った。京都の花街を対象として、(1)料亭に係る組織や経営の実態を聞き取り、(1)芸舞妓の人材育成に関するお茶屋・料理屋の関与を分析し、(2)近世京都における花街の変遷に関連する古資料の収集・読み下しを行った。京都花街を対象に、(1)おもてなしの質が関連事業者の連携により維持され、価格競争の回避につながることを明らかにした。京都祇園を対象として、(2)戦前における茶屋等の詳細な分布を調査し、(3)茶屋建築の外観の変容について絵図史料を元に分析を行なった。さらに先斗町、橋本を対象として、(3)各花街における元お茶屋建築の実測調査を行い、その変遷を明らかにした。福岡・博多を対象として、(2)料亭および券番の分布に関する変遷を明らかにした。

成果については学会発表等の他、新型コロナウイルス感染症禍のなか、令和3年3月に「第二回 花街・料亭の研究報告会」をオンラインで開催した。また令和4年6月開催の第45回全国町並みゼミ新潟市大会では第3分科会「花街のまちづくりと文化的景観」を新潟市古町花街の料亭「かき正」で開催した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 今村洋一	4. 巻 -
2. 論文標題 近代岐阜における花街空間の実態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2021年度日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画）	6. 最初と最後の頁 31-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今村洋一	4. 巻 53号
2. 論文標題 統計にみる岐阜県内の近代「花街」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 椋山女学園大学研究論集（社会科学篇）	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20557/00003329	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 今村洋一	4. 巻 21巻
2. 論文標題 統計にみる明治・大正・昭和初期における全国の芸妓数	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 椋山女学園大学 文化情報学部紀要	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20557/00003352	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 西尾久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 伝統文化専門職の連携による技能育成とキャリア形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人材育成学会第19回年次大会報告論集	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上年和	4. 巻 -
2. 論文標題 京都における遊所女紅場の建築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会2021年度大会(東海)学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 777-778
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上年和	4. 巻 第2号
2. 論文標題 京都花街の劇場建築 -女性芸能者の芸能興行施設と歌舞練場-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都美術工芸大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村 夏美、岡崎篤行	4. 巻 -
2. 論文標題 金沢市における料亭文化の継承 -昭和初期の立地及び行政による助成実態に着目して-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 989-990
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植野惟真、岡崎篤行	4. 巻 No.20
2. 論文標題 全国の花街における支援組織の運営及び活動実態	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 464-467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村英慈、久保有朋、岡崎篤行	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 花街を構成する建築物に関する分布の変遷 -昭和初期から現在における東京・赤坂を対象として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村洋一	4. 巻 -
2. 論文標題 近代名古屋における花街空間の実態	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今村洋一	4. 巻 第52号
2. 論文標題 統計にみる愛知県内の近代「花街」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 檀山女学園大学研究論集(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上年和	4. 巻 -
2. 論文標題 お茶屋建築の改修履歴 - 五條楽園「たか橋」の事例 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 837-838
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上年和	4. 巻 第1号
2. 論文標題 北野社境内における芸能空間の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都美術工芸大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川晶登・大場修	4. 巻 93号
2. 論文標題 料亭の建築形式に関する類型的把握 近代和風建築総合調査報告書を用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会北海道支部研究報告集	6. 最初と最後の頁 369-372
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池ノ上真一	4. 巻 -
2. 論文標題 観光を用いた地域の生産力の発展に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度日本建築学会農村計画部門研究協議会「農村計画のパラダイム 今、移住・定住・地域論の達成と展望は」資料集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池ノ上真一	4. 巻 第178号
2. 論文標題 松村隆『江差花街風土記 - 北前船文化の残影 - 』書評	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 江さし草	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾久美子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 日本型エンターテイメントにおけるキャリア・マネジメント - 能楽・京都花街・宝塚歌劇・AKB48の比較 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都女子大学現代社会研究	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴山慶子・岡崎篤行	4. 巻 -
2. 論文標題 全国の花街における見番の機能及び建築の実態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2022年度日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 1121-1122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村 夏美・岡崎 篤行	4. 巻 21
2. 論文標題 福岡市における花街の変遷と実態 -大正末期から現在までの料理屋の分布を中心として-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 482-485
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 狩野 歩夢・岡崎 篤行	4. 巻 21
2. 論文標題 花街の貸座敷に関する戦前の分布 -祇園を対象として-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本都市計画学会都市計画報告集	6. 最初と最後の頁 540-542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 日本建築学会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 230
3. 書名 生きた景観マネジメント	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野澤 康  (NOZAWA Yasushi)  (00251348)	工学院大学・建築学部(公私立大学の部局等)・教授   (32613)	
研究分担者	井上 年和  (INOUE Toshikazu)  (00505688)	京都美術工芸大学・工芸学部・准教授   (34326)	
研究分担者	今村 洋一  (IMAMURA Youichi)  (00568404)	椋山女学園大学・文化情報学部・教授   (33906)	
研究分担者	川原 晋  (KAWAHARA Susumu)  (10367047)	東京都立大学・都市環境科学研究科・教授   (22604)	
研究分担者	大場 修  (OBA Osamu)  (20137128)	立命館大学・衣笠総合研究機構・教授   (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤村 明  (SAWAMURA Akira)  (40334643)	新潟大学・人文社会科学系・教授    (13101)	
研究分担者	岡村 祐  (OKAMURA Yu)  (60535433)	東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授    (22604)	
研究分担者	池ノ上 真一  (IKENOUE Sinichi)  (60582252)	北海商科大学・商学部・教授    (30112)	
研究分担者	井上 えり子  (INOUE Eriko)  (70226736)	京都女子大学・家政学部・教授    (34305)	
研究分担者	松井 大輔  (MATSUI Daisuke)  (80709816)	新潟大学・自然科学系・准教授    (13101)	
研究分担者	西尾 久美子  (NISHIO Kumiko)  (90437450)	近畿大学・経営学部・教授    (34419)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------